

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
<b>0 建築物の環境品質</b>								<b>3.6</b>
<b>Q1 室内環境</b>			<b>0.40</b>					<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-			<b>3.0</b>
<b>1.1 騒音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1.1.1 騒音								
1.1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
1.1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-			
<b>1.2 遮音</b>		<b>3.0</b>	0.40	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-			
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
<b>1.3 吸音</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
<b>2 温熱環境</b>		<b>3.0</b>	0.35	-	-			<b>3.0</b>
<b>2.1 室温制御</b>		<b>3.0</b>	0.50	-	-			
2.1.1 室温設定		3.0	0.38	3.0	-			
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
2.1.3 外皮性能		3.0	0.25	3.0	-			
2.1.4 ゾーン別制御性		3.0	0.38	3.0	-			
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
2.1.6 個別制御		-	-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
2.1.8 監視システム		-	-	-	-			
<b>2.2 湿度制御</b>		<b>3.0</b>	0.20	<b>3.0</b>	-			
<b>2.3 空調方式</b>		<b>3.0</b>	0.30	<b>3.0</b>	-			
<b>3 光・視環境</b>		<b>4.2</b>	0.25	-	-			<b>4.2</b>
<b>3.1 昼光利用</b>		<b>4.6</b>	0.30	-	-			
3.1.1 昼光率		昼光率 3.431% > 2.5%以上	5.0	0.60	3.0	-		
3.1.2 方位別開口			3.0	-	3.0	-		
3.1.3 昼光利用設備		階段室上部にトップライトを設置	4.0	0.40	3.0	-		
<b>3.2 グレア対策</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
3.2.1 照明器具のグレア			-	-	-			
3.2.2 昼光制御		庇+ブラインドまたは庇+カーテンを設置	4.0	1.00	3.0	-		
<b>3.3 照度</b>		<b>3.0</b>	0.15	-	-			
3.3.1 照度			3.0	1.00	3.0	-		
3.3.2 照度均斉度			-	-	-			
<b>3.4 照明制御</b>		明るさセンサー、リモコンスイッチ12分割により1作業単位での制御可能	<b>5.0</b>	0.25	<b>3.0</b>	-		
<b>4 空気環境</b>		<b>4.4</b>	0.25	-	-			<b>4.4</b>
<b>4.1 発生源対策</b>		<b>5.0</b>	0.50	-	-			
4.1.1 化学汚染物質		F を全面的に使用 (VOCに対する配慮有)	5.0	1.00	3.0	-		
4.1.2 アスベスト対策			-	-	-			
4.1.3 ダニ・カビ等			-	-	-			
4.1.4 レジオネラ対策			-	-	-			
<b>4.2 換気</b>		<b>3.6</b>	0.30	-	-			
4.2.1 換気量			3.0	0.33	3.0	-		
4.2.2 自然換気性能		自然換気有効開口面積が居室面積の0.1698 > 1/10以上	5.0	0.33	3.0	-		
4.2.3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33	3.0	-		
4.2.4 給気計画			-	-	-			
<b>4.3 運用管理</b>		<b>4.0</b>	0.20	-	-			
4.3.1 CO <sub>2</sub> の監視			3.0	0.50	-			
4.3.2 喫煙の制御		全館禁煙	5.0	0.50	-			
<b>Q2 サービス性能</b>		-	<b>0.30</b>	-	-			<b>3.5</b>
<b>1 機能性</b>		<b>3.7</b>	0.40	-	-			<b>3.7</b>
<b>1.1 機能性・使いやすさ</b>		<b>3.3</b>	0.40	-	-			
1.1.1 広さ・収納性		1人あたりの執務スペース 9.03㎡ > 9㎡以上	4.0	0.33	3.0	-		
1.1.2 高度情報通信設備対応			3.0	0.33	3.0	-		
1.1.3 バリアフリー計画			3.0	0.33	3.0	-		
<b>1.2 心理性・快適性</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1.2.1 広さ感・景観			3.0	0.33	3.0	-		
1.2.2 リフレッシュスペース		自販機コーナーの設置(全館禁煙)	5.0	0.33	3.0	-		
1.2.3 内装計画		建物利用者の健康配慮、利便性の追求、照明計画の配慮	4.0	0.33	3.0	-		
<b>1.3 維持管理</b>		<b>4.0</b>	0.30	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計		内外装材とも防汚性の高いものを採用、清掃のしやすさ等に配慮	4.0	0.50	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保		清掃員控室、清掃用具、清掃用設備等を設置	4.0	0.50	-			
<b>2 耐用性・信頼性</b>		<b>3.2</b>	0.31	-	-			<b>3.2</b>
<b>2.1 耐震・免震</b>		<b>3.0</b>	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性			3.0	0.80	-			
2.1.2 免震・制振性能			3.0	0.20	-			
<b>2.2 部品・部材の耐用年数</b>		<b>3.4</b>	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		評価基準による等級2相当	4.0	0.23	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		更新期間 10年 < 20年を確保	4.0	0.09	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔		給水管及び給湯管SUS管、冷却水管SGP(白)を使用	4.0	0.15	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-	
2.4 信頼性			3.4	0.19	-	-	
1	空調・換気設備		3.0	0.20	-	-	
2	給排水・衛生設備		3.0	0.20	-	-	
3	電気設備	浸水による停電・損傷の回避、無停電電源装置の設置	4.0	0.20	-	-	
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20	-	-	
5	通信・情報設備	浸水による停電・損傷の回避、通信手段の多様化	4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.4	0.29	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1	階高のゆとり	基準階高 4.0m > 3.9m以上	5.0	0.60	3.0	-	
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率 = 0.199:0.1以上0.3未満	4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.17	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.17	-	-	
3	電気配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
4	通信配線の更新性		3.0	0.11	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.22	-	-	
6	バックアップスペース		3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	3.7
1 生物環境の保全と創出			3.0	0.30	-	-	3.0
2 まちなみ・景観への配慮		開放的な配置計画を採り、街並みへの融合を図っている。	4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	緑地(ヤシの木採用)の確保、開放的な配置により周辺環境へ配慮	4.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上	緑地や風の通り道を確保するとともに、日陰の形成に努める。排熱の影響を少なくする配慮を行っている。	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.6
1 建物の熱負荷抑制		PAL値 231.1 < 基準値300.0の10%以上削減	4.0	0.30	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用		3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用		3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化		ERR=21	4.0	0.30	-	-	4.0
4 効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
4.1	モニタリング		3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.7
1 水資源保護			3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水	節水コマ及び節水型便器を使用	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.67	-	-	
2	雑排水再利システム導入の有無		3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			3.9	0.63	-	-	3.9
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.24	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	高炉セメント	4.0	0.20	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	再生アスファルト、陶磁器タイル、ビニル床材	5.0	0.20	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		2.0	0.05	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	躯体と仕上げ材が容易に分別できる。再生できるユニット部材(OAフロア)の採用	5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.2	0.22	-	-	3.2
3.1 有害物質を含まない材料の使用			3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-	
1	消火剤	ハロン消火剤は一切使用していない。	4.0	0.33	-	-	
2	断熱材		3.0	0.33	-	-	
3	冷媒		3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.7
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率 83%	4.3	0.33	-	-	4.3
2 地域環境への配慮			3.8	0.33	-	-	3.8
2.1 大気汚染防止		吸収冷温水器 低Nox型の採用	4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善		風下に対する風通しに配慮するとともに、緑地を確保し地表面の熱容量の大きな材料の使用を抑制し、保水性・透水性の高い被服材を使用し敷地外への熱的な影響を低減	4.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	自転車置場の確保、管理用車両の駐車施設の確保	5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		3.0	0.70	-	-	
2	昼光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	